

### 3 仮説3【成長を実感できる道徳の評価の工夫】に関する研究

#### (1) 児童の成長を記録する交換授業の実践

学習指導要領には「児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。」と示されている。本校では、児童の学習状況や道徳性に関わる成長を様々な方法で捉えるようにしている。

道徳の授業で評価をする際、授業をしながら児童一人一人の様子を評価することは、とても難しい。そこで、本校では、自分の学級の児童をじっくり評価できる場を設定しようと、年に2回程度「交換授業」を実施している。担任は「道徳の授業評価カード」に記した評価の観点に則って、授業中の児童の気付きや成長を見取ったり、発言や発表、つぶやきや学習シートの記述内容等々を評価し、記入した。【資料29】交換授業をすることで、担任は子どもたちの評価に集中できたため、日頃の道徳の授業より、精度の高い評価が可能となった。

【担任側】  
児童のよさを観察できる。記録もしつかりとることができ、精度の高い評価ができる！



【授業者側】  
事前に、学年で教材研究をしているから、より質の高い授業ができる！

【資料28】

## 道徳の授業評価カード

伊能忠敬

生きる希望・勇気・努力

|  |   |
|--|---|
| <p>① 自分自身の関わりの中で価値理解を深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物を自分自身に置き換えて考え、自分なりの意見を持っている。(中心発問)</li> <li>自分との関わりで振り返りができている。(中心発問・展開後段)</li> </ul> | <p>② 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉えようとしている。(中心発問)</li> <li>自分と違う立場や感じ方・考え方を理解しようとしている。(中心発問・展開後段)</li> </ul> |
| <p>船中とあそびたいので忠敬さんよ...</p>  | <p>夢 年下に弟子入り<br/>根拠 自分でやる決心<br/>① 知ってる世界を知りたい 誰かあそびたい</p>   |
| <p>忠敬さんのようにバスターに乗って 塾と家の合間にバスターの練習をした。</p>   | <p>夢 あそびたいけれど、大げさな仲間がほしい。おもしろい。<br/>② 夢を知りたい 思返し</p>  |
| <p>あそびたい心は足りなかった。忠敬さんのように何事も。</p>  | <p>仲間と 勉強大好き<br/>③ 今やることを、親子、師匠が思返し</p>   |
|  | <p>今で自分よりおもしろい 忠敬さんは、あそびたい人<br/>④ 助け合い。最後で誰かにつなげる</p>   |

#### 【指導と評価の一体化】

新学習指導要領解説「道徳科」に示されている通り、評価の観点①と②が、授業を組み立てる上での大事なポイントとなる。

#### 【交換授業のポイント】

- 1 交換授業の教材を決め、評価の観点を確認する。
- 2 教材研究を学年で行う。
- 3 学級の実態が違うため、事前アンケートをとっておくと実態を知ることができる。(事前アンケートは、導入等に活用)
- 4 担任は児童一人一人の様子を見取り、発言や発表、道徳ノート<sup>①</sup>の記述内容などを道徳の授業評価カードに記入し評価する。

## (2) 道徳ノートの効果的な活用方法

### ア 児童の成長を評価

3年生で「心と心のおく手」（親切,思いやり）の授業を実践した。登場人物の行動やその行動をとった理由や結果を予想させる授業展開を実施した。以下は事前に書いた「高齢者疑似体験の感想」と「道徳の授業中に書いた道徳ノートの記述」を並べて比較したものである。道徳ノートに思いを残すことで、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていることが分かる。

#### 高齢者疑似体験後の感想

##### A君の道徳ノート

おじいちゃんとおばあちゃんがきついと、今気が付きました。耳があまり聞こえないと分かりました。



【資料30】

#### 「心と心のおく手」の授業での記述

##### A君の道徳ノート

- ①（行動の予想）おばあちゃんの荷物を持ってあげた。
- ②（理由）おばあちゃんが転んだとき、ぼくが付いていたら助けられるから。ぼくも、前におばあちゃんが歩くとき、きつそうだったから荷物を持ってあげたことがあります。ぼくのおばあちゃんは「ありがとう。」と言ってくれたから、ぼくの心がぼかぼかになりました。
- ③（結果の予想）おばあちゃんが喜んでくれた。

【資料31】

A君は、高齢者疑似体験を通して高齢者の大変さを実感し、道徳授業で荷物を持ってあげた自分の行為が価値あるものと気づき、理由を上記のように記述していた。道徳ノートに思いを残すことで、児童自身、自分の心の成長を実感できた。

### イ 振り返り（ねりあげる過程・つなぐ過程）で評価

道徳ノートを「ねりあげる過程」「つなぐ過程」で使う場合、児童に「振り返りのポイント」を示した。「振り返りのポイント」を示したことで、何を振り返るか明確になり、どの児童も振り返りが書けるようになった。また教師にとっても、児童がどの程度、本時のめあてにそって考えることができているか評価できたり、教師自身の授業評価に生かしたりすることができた。

#### 【振り返りのポイント】

感想の書かせ方（展開・終末）

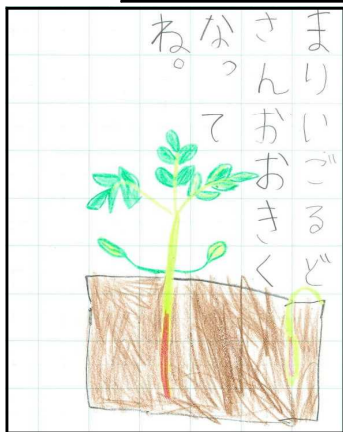
- ①今までは○○○でした。
- ②今日の授業で学んだことは○○○
- ③これからは○○○

※①～③の言葉を提示し児童の変容を見取る。

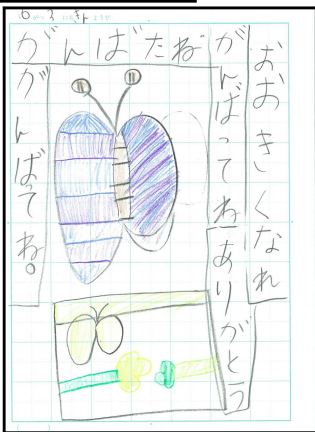
今までは、何かをこわしてしまっても弟のせいにしてごまかしていたけれど、今日勉強して何でも正直に言ったほうがいいと分かったから、これからは人のせいとせず正直に言おうと思いました。

【資料32 「まどガラスと魚」道徳ノート】

1年生の道徳ノート



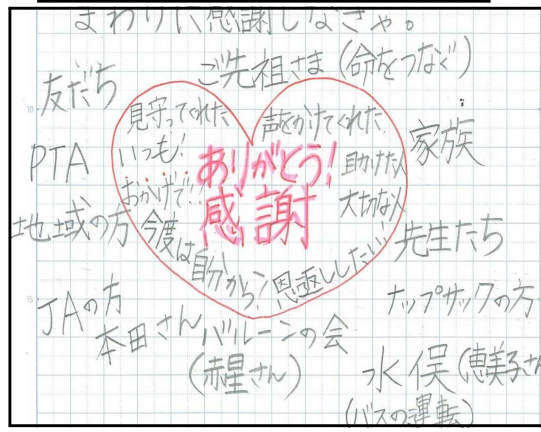
【資料33】



【資料34】

低学年では、絵や文字を使って自分の思いを残している。

5年生の道徳ノート



【資料35】

キーワード「感謝」をもとに振り返りを行っている。

上記のように、児童の実態に合わせた使い方を工夫することがポイントとなる。低学年は絵が中心で、学年が上がるごとに内容も少しずつ高度なものへと変化する。高学年では、自分なりに工夫したまとめかたができるようになってきている。

(3) 自分の成長を実感できる自己評価カードの活用～「道徳の授業ふりかえりカード」～

( )月( )日  
**【道徳の授業ふりかえりカード】**  
 番( )

|   |   |
|---|---|
| ① お話に出てくる人の立場にたって考えられましたか。(もし自分だったら～)   | ○ |
| ② 感じたことや考えたことを進んで発表できましたか。              | ○ |
| ③ 友達の考えが役に立ちましたか。                       | ◎ |
| ④ 今日は(自然を大切にすること)について自分の考えを持つことができましたか。 | ◎ |

※感想 **自然を大切にしたいです。**

【資料36】

「道徳の授業ふりかえりカード」は、児童自身が自分の学びを振り返るだけでなく、教師自身が道徳の時間における子どもたちの学習状況の様子や心の変容を把握することに大いに役立った。

道徳の授業で学習したことが自分自身の中でどのように深まったのかを自己評価するために「道徳の授業ふりかえりカード」を活用した。

「道徳の授業ふりかえりカード」作成に当たって配慮したことは、早く簡単に書けるということである。①から④の項目について◎○△を使い、簡単に評価できるようにした。一言感想の欄には、本時で学習で考えたことを自由記述できるようにした。

記入後は、道徳ノートに貼り付けさせ、年間を通して、学びの足跡を残した。

(4) 学校・家庭・地域をつなぐ評価の工夫

ア 児童の成長を伝える通知表の評価～所見の活用～

児童の成長を保護者に伝える手段はとして、通知表がある。保護者の関心がとても高い通知表の所見欄に、道徳の授業での様子や体験活動・各教科等での様子を書くように共通実践をした。所見を通して、児童の頑張りやよさを保護者へ発信できた。

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>【1年生】</b><br/><b>生活科での様子</b><br/>生き物の命を大切にすることを育てたいと考え、ツマグロヒョウモンの幼虫を教室で飼育することにした。児童は、幼虫の成長を熱心に観察していた。</p> | <p><b>【4年生】</b><br/><b>道徳の授業での様子</b><br/>「お魚大好き さかなクン」(個性の伸長)の道徳の授業をした。今まで自尊心が低かった児童が、道徳の授業を通して、自尊心が高まった。</p> | <p><b>【6年生】</b><br/><b>行事での様子</b><br/>「運動会」では、学校のリーダーとして、6年生の児童が活躍した。特に応援団になった児童は、友達や下学年の児童に親切にしていた。</p> |
| 生命の尊重   | 個性の伸長   | 親切, 思いやり   |
| <p><b>【所見欄】</b><br/>・チョウの幼虫やさなぎの様子を毎日のぞき込んだり、アサガオの変化をよく教えてくれたり、生き物にも優しく接していました。(1年児童)</p>                       | <p><b>【所見欄】</b><br/>・道徳「お魚大好きさかなクン」では、自分のよいところがないと言っていたB君でしたが、友達の声かけもあり、自分のよさをたくさん書いていました。(4年児童)</p>          | <p><b>【所見欄】</b><br/>・運動会では、応援団として練習を自主的に進め、下級生への指導も優しく丁寧に、頑張っていました。すばらしかったです。(6年児童)</p>                  |

【資料37】

【資料38】

【資料39】

イ 親子ふれあい読書

**親子ふれあい読書** 御船小学校 図書館

おうちの父といっしょに読書をたのしみましょう。

○テレビをけして、同じ時間、同じ場所で本をよみましょう。20分が目安です。  
○ものがたりの本や伝記など、「読み物の本」をえらびましょう。「わたしたちの道徳」のおすすめの読み物をプリントで紹介しています。読み方は、読みかきでも、「読みかき(おうちの父と前夜の本をよむ)、輪読、交互読みなど自由です。前の日までに、読む本をきめておきましょう。  
どくしょをよむとしましょう。( )年 なまえ( )

| 月日   | 曜日 | よんだ本       | 月日   | 曜日 | よんだ本        |
|------|----|------------|------|----|-------------|
| 9/17 | 日  | 葉利師のひみつ    | 9/21 | 木  | 暗闇のゲームセンター  |
| 9/18 | 月  | ポンプのひみつ    | 9/22 | 金  | あのせからのリレバンス |
| 9/19 | 火  | 地デジのひみつ    | 9/23 | 土  | 三年とうげ       |
| 9/20 | 水  | ちいらんのかげおくり | 9/24 | 日  | モウモウの木      |

★読み方 のところは、その日のよみかたをまるでかみましょう。そのほかのよみかたをしたときは、( )の中にかきましょう。  
おうち読書のかんそう(子ども) おうちの方へ 感想の記入をお願いします。

おもしろい本やこわい本など、いろいろな話がきかえてよかった

小さい時は、よみかきをしてほしい。最近(は、ひびに読むことばかり、この機会にと思いきい、なかなか読めなかった。皆読も毎日今は読んでみるので、楽しい。11月ようど、おうちで読書は2年が知れは、12月

★このカードは、9月25日(月)に、たんじんの先生に出します。

【資料40】

学期に1回「親子ふれあい読書」を実施している。「くまもとの心」や「わたしたちの道徳」の中からお勧めの読み物を学年ごとに紹介して、家族で読むことを推進した。「親子ふれあい読書」を通して、親子で感想を交流させ、児童の考えのよさを保護者から褒めてもらう(評価してもらう)という目的がある。「テレビを消して同じ時間、同じ場所で読むことで、しっかり集中できた。今後でもできるだけこの時間を持ちたい。」というような感想も寄せられた。児童も、「親子で読めて楽しかった。」という感想が多かった。一緒に読むところまではできたが、活発な感想交流まではいかなかった。今後も、この取組を続け、親子で道徳的価値について考え話す機会を作り、家庭との連携を深めていきたい。

## ウ 道徳教育通信～「心のプレゼント」～



道徳通信

# 心のプレゼント

第1号



平成29年6月23日  
 御船小学校は、昨年度から熊本県教育委員会「生きる力」を育む研究指定校(心の教育研究推進校)として、道徳の教科化を意識した道徳教育の研究に取り組んでいます。特に今年度は、10月25日(水)本校に公開授業研究会が予定されており、職員一丸となって研究・実践に励んでいるところです。  
 道徳通信第1号では、4月14日(金)に行われた『命・感謝を考える集い』、5月31日(水)の「4-1(担任・赤星)の道徳の授業」の2つをご紹介します。

**『命・感謝』を考える集い**

【担当】大脇校長先生



かつて、第83回選抜高校野球で行われた野山伸介主将(創始学園)による選手宣誓について紹介しました。この年は、東日本大震災がありました。野山主将は幼い頃に、阪神淡路大震災で被災しており、自身の経験から、「仲間を支えられることで、大きな困難を乗り越えられる」と力強く述べたそうです。また、後半は「支え合う」という詩を朗読した上で、「一人一人が確かな力を出し合い、みんなで支え合う、よい一年間にしていきたい」と呼び掛けました。

【担当】赤星先生



熊本地震が発生した平成28年4月以降、今日までの写真を時系列で映し出しました。そこには、当時の避難所としての体育館に、様々な物資が届く様子等がありました。初めは「この時は大変だった」と振り返っていましたが、徐々に気づく、全国の皆さんからの温かい支援の存在。「生きていてくれてありがとうございます」「北海道から応援しています。」「負けるな！熊本！」  
 今こうして当たり前前に生きていられるのは、これらの温かい心遣いのおかげであることを忘れてはいけません。感謝の気持ちを深めるとともに、今ある命を、大切にしようとする全員で再確認しました。



誰かが近くにいることで、とても安心できました。

【担当】内村先生



この時間は、ストレッチを行うことで、心と体のリフレッシュを図りました。熊本地震から1年が経ち、これまでの子どもたちの姿を取り戻しつつあるように見えます。しかし実際は、無意識に緊張をしたり、立ち直るために気を張っている児童は多くいます。先生や友達と一緒に、ゆったりとした雰囲気の中で体を伸ばしたことで、自分をいたわるように、リフレッシュすることができました。



何だかスッキリしたよ。勉強の後も良さをうたな。

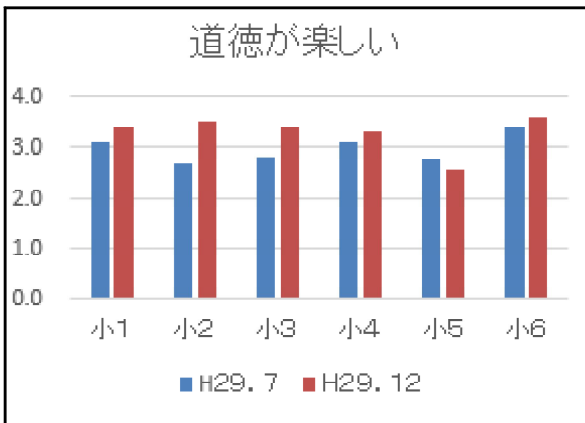
**各学級で道徳の時間**



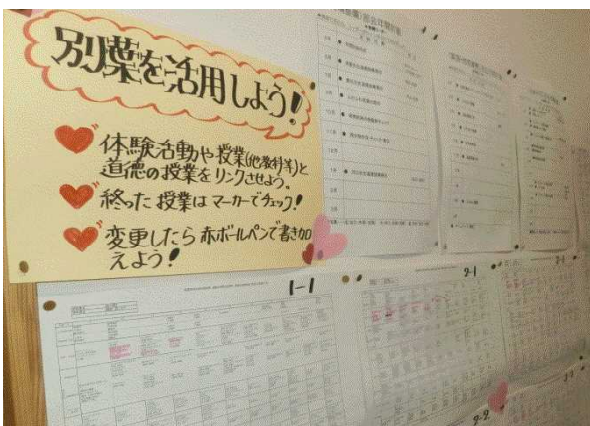
『命・感謝』を考える集いの後は、各学級にて、「道徳」を行い、学級の実態に合わせた授業によって、更に学習を深めました。

【資料4-1 「心のプレゼント」】

### III 研究の成果と課題



【資料4-2】

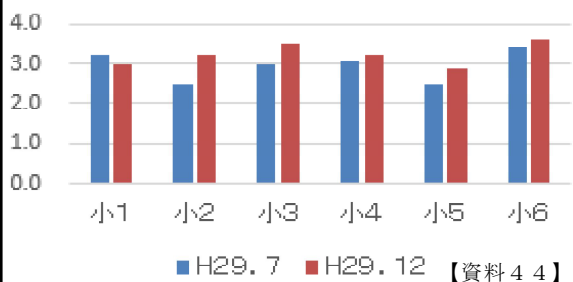


【資料4-3】

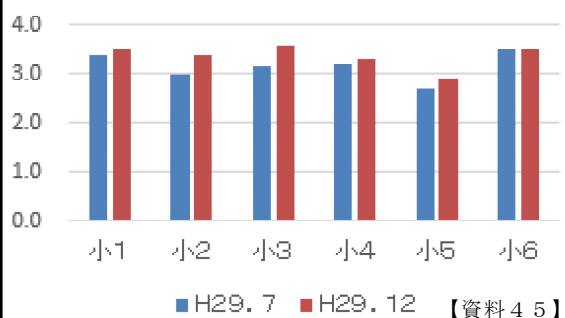
#### 【仮説1について】

- ・体験を生かし、自分を見つめさせる工夫をしたことで、児童にとって教材が身近に感じられ、積極的に道徳の授業に参加するようになった。道徳が楽しいと答える児童がほとんどの学年で増えた。【資料4-2】
- ・道徳教育全体計画別葉を職員がよく目にする職員室に掲示したことで、年間を通して道徳教育のつながりを意識した実践ができるようになった。【資料4-3】
- ・授業で自分を見つめさせる際、写真の活用をした。写真は、児童が自分を見つめる上で大変効果的だった。振り返りが苦手な児童も写真を見ながら「自分も前に経験したことがあったな。」と見つめ直すことができた。【資料4-3】
- ・道徳コーナーは、児童が学んだことを繰り返し振り返るのに活用できた。【資料4～7】

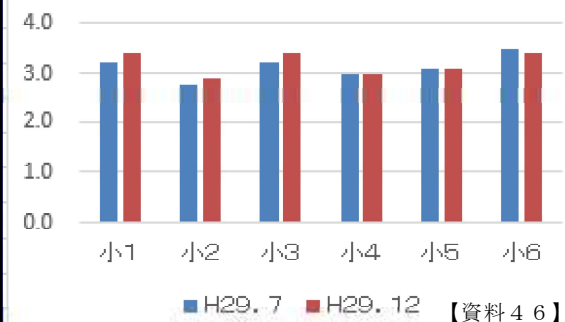
### 友達の考えと比べてなるほどと思う



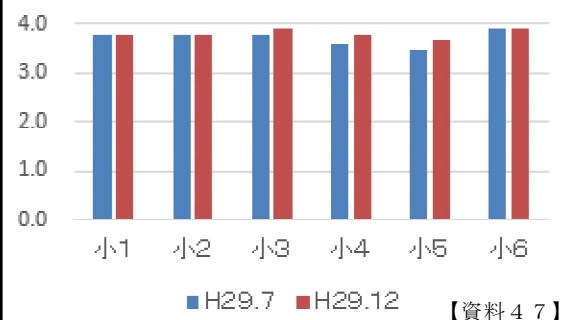
### 学んだことを行動に移したい



### 自分の良いところと言える



### 命は大切だと思う



#### 【仮説2について】

・ペアトークやグループトーク等の多様な話し合い活動を取り入れ「共に考える道徳の授業展開の工夫」を行った。そのことで、児童の考えが深まる場面が増えた。アンケート結果【資料44】で「友達の考えと比べてなるほどと思う」と答えた児童の数がほとんどの学年で伸びた。意見を交換することにより、自分の考えを確かなものにできた結果である。

・「共に考える道徳の授業展開の工夫」では、発問の工夫をした。児童の問題意識を高める発問を心がけることで、学んだことを行動に移したいという意識が高まった。【資料45】

・今後の課題として、話し合いの充実を図る必要がある。自分の考えと友達の考えを比べて問い返しをするなど、話し合いをすることで、より学びが深まるよう、工夫を続けていきたい。

#### 【仮説3について】

・難しい道徳の評価であるが、「交換授業」を実施することで、自分の学級の児童がどのような考えをもち、どのような態度で授業に取り組んでいるか等、児童のよさや成長をじっくり評価することができた。【資料28・29】

・日常の評価の積み重ねを通知表の所見欄に活用したことで、児童のよさを保護者に伝えることができ児童の自尊感情を高めることができた。アンケート結果【資料46】より「自分の良いところと言える」という児童の割合がほとんどの学年で伸びている。

#### 【研究全体を通して】

・本テーマで取り組んだことで、児童が道徳教育を通して、友達とつながりながら学び合ったり、教材と深く向かい合ったりすることができた。一番良かったことは、自他の命を大切に思う心がより深まったことである。【資料47】

・指導と評価の一体化を実践することで、授業改善が行われ、児童の心に響く授業ができた。

## おわりに

「僕たちも一緒にしたいです」台風通過後、中庭を片付けている職員を見つけて、一緒に掃除をしたいと申し出た児童。熊本地震の際、御船小のために地域で募金をしてくださった方のために感謝のメッセージを自ら送りたいと申し出た児童。体験を生かし自己を見つめさせる本校の授業実践の成果が児童の姿となって現れています。

本校では、平成25年度より道徳教育をテーマに校内研修を進め、その年の課題となったことを次年度へ解決するための取り組みを重ねてきました。平成28年度は、研究主題を「いのち輝き、自他を『つなぐ』道徳教育を目指して～体験活動を道徳の授業に生かす取組～」とし、研究に取り組みました。特に各教科等や体験活動を道徳につなぐ工夫と体験活動を道徳の授業につなぐ工夫について実践と研究を重ねてきました。本年度は、テーマを「いのち輝き、自他を『つなぐ』道徳教育を目指して」と継続しサブテーマを「自己を見つめ、共に考える道徳の授業」とし、自己を見つめ、共に考える道徳の授業づくりを行ってきました。動作化や役割演技、共通体験の活用、道徳的克価値にせまる発問の工夫等を行ったことで、自分の体験に基づき、考え、意見を述べる児童が増えてきています。私たち職員はこの児童の変容を自分たちの喜びとし、更に研究を進めていく所存です。

今後も、次世代を担う児童自らが、学ぶ意志や意欲をもち、未来の夢や目標を見据え、自分の利益だけでなく社会や公共のために何をすることができるかを考えられる児童の育成を目指して、全職員で研修を進めていきたいと思えます。

最後に、本校の研究推進にあたって、貴重な指導・助言を頂いた上益城教育事務所の先生方をはじめ、管内の諸先生方に心より感謝いたします。

### 【研究同人】

大脇 為久 山下 淳子 古瀬英仁郎 古江 哲哉 坂口 浩子 今井 忠直  
市原 清美 廣田 拓也 中川 恭史 下山 千晴 河口 みさ 河島 加奈  
緒方 秋人 谷口 和之 井上 光代 豊住 和幸 赤星 桂子 永野 秀幸  
山本 達朗 吉村 広伸 松出 直子 吉岡亜沙美 宮本 真宏 中山 圭美  
村上 未佳 内村加奈子 櫛山 忍 本田 繭巳 河部 裕美 竹原 恵美  
寺野 由香 森岡 千晶

### 【参考文献】

- ※小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H27年3月 文部科学省
- ※小学校学習指導要領解説 道徳編 H20年6月 文部科学省
- ※道徳教育 2015 NO687 明治図書
- ※道徳教育 2015 NO688 明治図書
- ※道徳教育 2016 NO701 明治図書